

Press Release

みんながみんなの
みんじゅんがこー!!

tupera tuperaの

キニナル アニマル

絵本原画展

Curious Animals of tupera tupera:
Picture Book Illustrations



秋田市立千秋美術館

AKITA SENSU MUSEUM OF ART

亀山達矢と中川敦子による二人組のクリエイティブユニット・tupera tupera(ツペラ ツペラ)。2002年に活動を開始後、絵本やイラストレーションをはじめ、アニメーション、ワークショップなど、さまざまな分野で幅広く活躍してきました。絵本だけでも出版数は50冊を超え、日本国内だけでなく、海外でも多くの人々に愛読されています。

本展は、「動物」を切り口に tupera tupera のユーモアあふれる絵本の世界を紹介するものです。赤いパンツを脱がすことから始まる『しろくまのパンツ』、パンダの秘密が明かされる『パンダ銭湯』、地球から遠く離れた惑星に住むふしぎな動物を紹介する『わくせいキャベジ動物図鑑』など、作品の中に登場する個性的な動物たちは、世代を超えて、読者を楽しませてくれます。一風変わったキャラクターたちの面白さや思わず笑みがこぼれてしまう仕掛けなど、tupera tupera の豊かなアイデアから紡がれる表現の魅力に迫ります。

みどころ

■「キニナル」動物たちが勢ぞろい

これまで全国の美術館を巡る大規模な回顧展をはじめ、各地で展覧会を開催してきた tupera tupera ですが、「動物」を切り口にした絵本原画展の開催は初めてです。銭湯でサングラスを外すパンダの親子、パンツをなくしたしろくま、あらゆるものを飲み込むへび、海から飛び出し、火星まで飛んでいくタコ、船に乗り、各地を冒険するワニの男の子など、どこか変!? な「キニナル」動物たちが勢ぞろいします。



『しろくまのパンツ』(2012年、ブロンズ新社)

■新作の原画を初公開

2025年10月刊行の常識を覆す新種のチョウ84種が掲載されたチョウ形絵本『超チョウ図鑑』。同年11月に大幅に刷新された「ジャポニカ学習帳」にて担当した表紙絵。2つの新作の原画を本展にて初公開します。多くの展覧会に出品されてきた人気作品に加えて、多岐にわたって活躍し続ける tupera tupera の「今」も紹介します。



『超チョウ図鑑』
(2025年、アリス館)



「ジャポニカ学習帳・こくご8マス」
(2025年、ショウワノート)

■原画にみる「貼り絵」の魅力

主に紙を切って貼る「貼り絵」の手法で絵を制作する tupera tupera。包装紙や雑誌の切り抜き、色紙、自身で彩色した紙など、原画では、絵本のページをめくるだけでは分からない、さまざまな素材の質感の違いや鮮やかな色合いが伝わってきます。二人の創意に富んだアイデアとともに、それを形作っている、切り出された紙の線の美しさや紙を重ねることで生まれる立体感をご覧ください。



『アニマルアルファベットサーカス』(2009年、フレーベル館)

tupera tupera からのメッセージ

tupera tupera の絵本には、ちょっと変な動物たちがたくさんが登場していますが、考えてみるとこの地球上に生きている動物も人間も、みんな多種多様で、個性的な“キニナルアニマル”ですよ。見た目や一般的なイメージで判断して、この動物はカワイイとか、この動物はコワイとか、あの人は好きとか苦手とか、一概には言えないのではないのでしょうか。みんなが正しいと言っていることを、本当にそうだろうか？と疑ってみたり、違いをおもしろいね！と笑い合ったり。

この展覧会を通して、いつもとは少し違う目線や考えが、あなたの中に生まれたら嬉しく思います。

tupera tupera (ツペラ ツペラ)

亀山達矢と中川敦子によるクリエイティブユニット。2002年活動開始。絵本やイラストレーションをはじめ、テレビや舞台のアートディレクションなど、さまざまな分野で幅広く活動している。著書に『しろくまのパンツ』(ブロンズ新社)、『パンダ銭湯』(絵本館)、『かおノート』(コクヨ)、『やさいさん』(Gakken)、『いろいろバス』(大日本図書)など多数。海外でも多くの国で翻訳出版されている。NHK E テレの工作番組「ノージーのひらめき工房」のアートディレクションも担当。『わくせいキャベジ動物図鑑』(アリス館)で第23回日本絵本大賞。2019年に第1回やなせたかし文化大賞受賞。



Photo by Takayuki Abe

展示構成

1. 絵本のかたちとどうぶつ

この章では、パンツ型の帯をはかせた『しろくまのパンツ』『ねずみさんのパンツ』、へびのように長い『へびのみこんだ なにのみこんだ』、キューブ型の『きゅうきゅうブーブー』といった、絵本の形から着想を得て作られた作品を紹介します。



『きゅうきゅうブーブー』(2021年、岩崎書店)

2. 文字とどうぶつ

tupera tupera がアルファベットという定番のテーマに挑んだら？ A～Zの頭文字で始まる動物たちが芸を繰り広げる『アニマルアルファベットサーカス』、それぞれの文字で始まる2つの単語の組み合わせから生まれた愉快な仲間たちが登場する『ABCパーティ』により、定番のなかに光るオリジナリティをご覧ください。



『へびのみこんだ なにのみこんだ』
(2011年、えほんの社)

3. どうぶつの主人公たち

人々を魅了するパンダは「本当にかわいいだけなのか？」との疑いから始まり、パンダの親子を主人公にその秘密を明らかにした『パンダ銭湯』、イタリアのパン「バニーニ」をもとに、「ワニーニ」と名付けた12歳のワニの男の子からイメージを膨らませた『ワニーニのぼうけん』など、この章では、主人公から展開を想像し、ストーリーが考えられた作品を紹介します。



『ABCパーティ』(2019年、白泉社)



『パンダ銭湯』(2013年、絵本館)



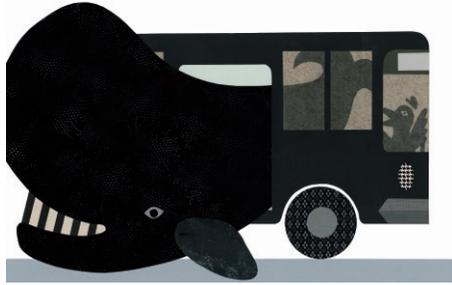
『ワニーニのぼうけん』(2008年、婦人之友社)



『タコさんトコトどこいくの?』(2010年、絵本館)

4. いろいろなどうぶつ

ことは遊びの連続で世界観が作られ、何でもしましまの『しましまじま』。島に住む動物たちも皆、しましまに彩られています。色と乗り物を組み合わせた『いろいろバス』では、運転手や乗客となり、カラフルな動物たちが登場します。この章では、初期作から新作の「ジャポニカ学習帳」の表紙絵まで、絵本に限らず tupera tupera の作品のなかの個性豊かな動物たちをご覧ください。



『いろいろバス』(2013年、大日本図書)



『しましまじま』(2006年、プロズ新社)



「干支飾り午」(2025年、中外陶園)

5. ふしぎなどうぶつ

『わくせいキャベジ動物図鑑』では、野菜や果物から発想した「リンゴリラ」や「ハクサイ」などの動物がその生態や特徴とともに紹介されています。『超チョウ図鑑』には、「シャチョウ」「ゼッコウチョウ」「ビジュツカンチョウ」など思わずくすっと笑ってしまう新種のチョウが登場します。1つの発想からじっくりとアイデアを練って広がっていく tupera tupera の制作の魅力を2つの図鑑を通してお伝えします。



『わくせいキャベジ動物図鑑』(2016年、アリス館)



『わくせいキャベジ動物図鑑』(2016年、アリス館)



『超チョウ図鑑』(2025年、アリス館)

展覧会概要

- 会期** 2026年4月25日(土)～7月5日(日) 会期中無休
- 開館時間** 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)
- 会場** 秋田市立千秋美術館(秋田市中通二丁目3-8)
- 主催** tupera tupera 展実行委員会(秋田市立千秋美術館、A A B秋田朝日放送)
- 後援** 秋田魁新報社、A B S秋田放送、A K T秋田テレビ、エフエム秋田、C N A秋田ケーブルテレビ
- 協力** 秋田市文化創造館
- 観覧料** 一般1,300円(1,100円)、大学生800円(640円)、高校生以下無料

※()内は20名以上の団体、前売、障がい者割引、秋田県立美術館および「春の院展」との相互割引料金
くるりん周遊パスで観覧の場合、一般990円、大学生590円

※前売券販売所：秋田市立千秋美術館、さきがけニュースカフェ、アソビュー！(当日券も販売)、
ローソンチケット(Lコード：23107)

関連事業の詳細は、当館ホームページでご確認ください。



美術館 HP

【展覧会に関するお問い合わせ先】

秋田市立千秋美術館 Tel：018-836-7860 Fax：018-836-7862 担当：米山茉未、奈良祥子